

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873002014		
法人名	社会福祉法人サンシャイン		
事業所名	グループホーム サンプラザやすらぎ		
所在地	尼崎市蓬川町331-4		
自己評価作成日	平成22年6月5日	評価結果市町村受理日	2010年8月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kaigo.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成22年6月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、お一人一人を尊重し、ご本人や家族の方々が望む生活を最後まで、送ってもらえるよう支援に努めています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は県営・市営住宅地の一角に位置し、周囲には木々が植えられ、季節の花々を楽しめる緑に囲まれた落ち着いた環境である。駅に近い上、近隣からの利用者もあり、来訪する家族が多い。保護者会には殆どの家族が出席して交流を図っている。

入院・退院時や終末期への支援については、同じ法人内の老人保健施設の医師や通所介護の看護師の協力を得て、きめ細かい支援を実践している。又看取りの際には家族が宿泊して付き添えることもできる。職員の熱心な取り組みは職員のレベルアップも促し、利用者や家族も満足している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人とは別にグループホーム独自の理念をつくりあげている	法人理念に加え、地域密着型サービスとして事業所独自の理念を作り、職員の目につきやすいところに掲示している。カンファレンス等で理念について話し合い、職員の理解と意識づけを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族の方や地域の代表の方々に理念の説明を行い、利用者が地域の一員として暮らしてもらえるように理解と協力を図っている	自治会や老人会に加入し、親睦旅行やお祭りなどに参加している。事業所の行事も広報し、利用者と地域住民とは顔なじみの関係となっている。年2回のクリーン作戦にも参加し、住民としての役割を果たしている。幼児、小・中学生との交流があり、大学生はボランティアとして来訪してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長、民生委員等と話し合いを持ち、地域の高齢者の方々の為に役立てるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中から、家族会とは別に保護者会が発足しており、保護者会での意見を真摯に受け止め、サービス向上に努めている。	利用者、家族、民生委員、ボランティア代表、地域包括支援センターなどの出席で、2ヶ月に1回開催。事業所の現状や具体的な課題などを主な議題としている。保護者会の意見や提案も報告され、サービス向上に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当課に電話やメール等で運営に関して、また法令、制度で困った時は気軽に相談している。	制度・法令の改正に関する疑問点などは、市担当課に出向いたり電話やメールで質問し情報を受けている。市内グループホーム連絡会の事務局を担当し、市担当職員とは気軽に話し合える関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束をしないケアに取り組み、実践している。	カンファレンスを通して、職員全員で拘束をしない方針を共有できている。1階は居宅介護支援事業所と通所介護食堂、2階は通所介護スペースであり、建物構造上1階に施錠しているが、利用者が1階に下りたときは見守り同行する体制が取れている。	今後は施錠しないでよい方法を検討できないか。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で研修の一環として管理者や職員は学ぶ機会を持っている。また事業所内においても皆で注意を払い、虐待防止に努めている。	法人全体で虐待防止に関し研修を実施している。職員は個々に「自分が言われたりされたりして嫌なことはしない」ということを自覚し、相互に注意しあっている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方について必要性があったことが以前にあり、関係者と相談し、話し合いを持ち、活用することができた。	権利擁護に関する制度の研修は実施していないが、法人内に地域包括支援センターがあり、以前、関係者で話し合いを重ね解決したケースがあった。	権利擁護に関する制度の研修を実施し、家族や職員への周知を図り、関係機関への橋渡しをするなど利用者への支援を続けてほしい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、すべての書類を読み上げ、説明を行い、また要望等を聞き、理解や納得してもらえるように努めている。	契約時は時間をかけて説明し、利用者や家族の不安や疑問点には誠意を尽くして対応するよう心がけ、理解と納得の上での契約となるよう努めている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の窓口を設けている。また、気軽に話しやすい雰囲気作りを努めている。	家族のみで交流する保護者会で出た意見や要望は、代表者が運営推進会議で報告するので、真摯に受け止め運営に活用するよう努めている。家族の来訪は多く、その際個別に声かけし、気がかりなことや希望などを気軽に相談できる雰囲気作りを心がけている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回運営会議があり、その場で運営者は現場の意見や提案を取り上げ、実施に向けて反映させている。	毎日のミーティングや月1回のカンファレンス等で出た職員の意見を、管理者が取りまとめ、月1回の法人運営会議にかけ運営に反映されるよう努めている。事業所のペランダが回廊となっているが、転倒防止のため溝蓋の設置を職員が提案し、即実行した実績もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	異動や離職のないよう努力をし、利用者との馴染みの関係を続けられるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアセミナー等の研修に参加の場合は出張扱いとし、全費用負担し、積極的に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に入会している。サービスの質の向上の為、職員は勉強会や討論会に参加し、サービスの向上を図っている。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や入居申込みの際に、ご本人が来られたら、じっくり話を聴き、少しでも不安を取り除くことが出来るよう受けとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方々が話をしやすい雰囲気づくりをして、今までの苦労話や心の葛藤をよく聴き、受けとめる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用までの待機間について、デイサービスの認知症型などを利用しながら、徐々に馴染んでもらえるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事、出来ない事を見極め、介護という枠を取り外し、家事などを一緒に行いながら、互いに支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方がいつでも訪問しやすい環境づくりに心掛け、信頼関係を深め、喜怒哀楽を共有し一緒に利用者を支えていく関係を築いている		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前よりされているカラオケサークルなどを継続できるように、また親しい友人が訪問しやすい雰囲気づくりに努めている。	併設のコミュニティホールの活動に利用者が参加し、地域住民とは親しい関係が続いている。近隣に住んでいた利用者には、昔ながらの友人の来訪があり、事業所としても歓迎している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の関係を把握し、孤立せぬよう、また、トラブルのないように努めている。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や暑中見舞いを送付、また、近くの家族には時折、訪問し関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は一人一人の思いを会話や動向の中から、くみ取るように努めている。また、困難な場合は家族の協力を得て本人本位に検討している	利用者の生活歴を把握し、会話にこめられた個別の思いを理解するよう努めている。言語化できない利用者については家族とも相談し、表情やしぐさから推し量っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は利用者本人や家族から得た生活歴や馴染みの暮らしなど、多くの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の有する力を見極め、その日の体調も考慮しながら出来ることをしてもらっている		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者及び職員全体が意見やアイデアを出し合い、また家族の要望を取り入れ作成している。	連絡ノートに記入された職員の気づきや意見を取り入れ、家族や主治医とも相談し、計画作成担当者が介護計画を作成している。計画は職員と共有し、3ヶ月に1回の見直しを原則としているが、利用者の状況の変化に応じ随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子や気づいた事をケアノートと介護日誌に記録し、職員全体で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日の状況でグループホームでは落ち着くことが出来ない時はデイサービスE型に参加させてもらい気分転換を図っている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の学校や幼児クラブの催し物や老人会主催のカラオケ教室などに参加させてもらっている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望により今までのかかりつけ医への受診を支援している。	入居前のかかりつけ医への受診は家族が同行している。必要に応じて、受診に付き添ったり、ホーム内での症状を家族に持参してもらう等、適切な医療が受けられる支援がなされている。ホームの協力医による2週間毎の往診支援もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者と親しい看護職員と医療連携を組んでいる。日常の健康管理や急変に対応してもらっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合には、提携医療機関と連携をとり、早期に退院できるように努めている	入院中は利用者を見舞い、安心して治療できるよう声かけしている。医療機関や家族とも相談、連携し、法人内の施設及び看護師の協力を得て、早期退院につなげる支援が行われている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期になった場合には、家族、主治医と事業所全体が相談しながら取り組んでいくことを説明している。	入居契約時に重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明している。保護者会の要望で看取りを始めた。法人内の医療関係者の支援のもと、職員も積極的に看取りに向き合っている。家族が付き添いやすいよう配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体で年1回消防署の方に応急手当や蘇生法などの指導を受けている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行い、また、地域の人々には、いつでも協力してもらえるよう働きかけている。	実際に起きたグループホームの火災発生を参考事例として即日緊急会議を開き、避難経路や職員の役割等確認し、避難しやすい環境整備に努めている。地域からの協力の申し出はあるが、周りも高齢化しているので、協力は求めるが、自助努力を重視している。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人を尊重し、声掛けや対応に配慮している。	個人情報やプライバシーの保護について新任職員研修で確認している。利用者の尊厳を損ねかねない対応には適宜注意している。失禁時や排泄の声かけは、さりげなく自室へ誘導する等羞恥心への配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の自己決定を尊重しながら、毎日を暮らしてもらえるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大切にし、その人らしい暮らしを送ってもらえるよう、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者ご本人の望む美容室に行ってもらいたいという希望に、行きつけの店がない方には訪問理美容を利用してもらい、身だしなみやおしゃれの支援に努めている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事準備や片付けをして、利用者「ありがとうございました。」と感謝の気持ちを表している。	利用者が食事準備に参加しやすい、食堂の中央に置かれたアイランドキッチンを採用している。買い物は近所の店へ利用者と一緒に出かけたりもする。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	小食の方には捕食を摂ってもらうよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯装着の利用者には、一日一回洗浄剤に浸している。また、利用者全員に毎食後、口腔洗浄液で口をすすいでもらっている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時にオムツ使用の入居者に尿意が確認できれば、オムツはずしに取り組み、気持ちよく排泄できるよう支援している。	尿意を確認して、声かけし、布パンツに切り替えるようオムツはずしに取り組んでいる。パット利用を工夫する等で排泄の自立に向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体操、散歩などを行い、食事の内容についても気を配っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望に応じて、毎日の方、一日おきの方や、一人で入浴したい方に合わせている。	入浴時間や曜日は決めないで朝からお湯を張り、入りたい時に利用できる支援がなされている。各自が生活のリズムに合わせて入浴を楽しんでいる。夜間の入浴も対応可能。ゆず湯、菖蒲湯で趣きを変えることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々に応じて、休息されている場合は無理に起こさず、気持ちよくしてもらえるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬ケースに薬の目的や用量を貼り付け、職員全体で理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味（習字、カラオケ、美術、園芸など）を取り入れ、少しでも楽しみながら、日々を過ごせるよう支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望にそって、出来るだけ外出を心掛けています。近くの蓬川沿いには時期の花々が植えてあるので、楽しんでもらっている。	団地の集会所や近くの川沿いの散歩、買い物等戸外へ出かけられる支援をしている。老人会の旅行やドライブ、全員で遠足へ行く等、普段いけないところへの外出も支援されている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際には、利用者に支払いをしてもらい、お金の所持や使えることを味わってもらっている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも葉書、便箋を用意している。好きな時に電話をかけられるよう支援している。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は季節を感じてもらえるように花などを利用者の方に活かしてもらっている。また、換気には気を配っている。	共有スペースは天窓があり、明るく、広々とした開放感がある。4階は菜園になっていて、ゴーヤやキュウリのつるを3階の天窓にはわせて緑のカーテンを作っている。菜園は車椅子で容易に移動できる工夫がされている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下部分に長椅子やソファを置き、好きなところで過ごしてもらえるように努めている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持ち込んでいただいている。仏壇があると落ち着かれる方がおられるので、仏壇も安置して仏花やお供えのご飯をまつっていただいている。	畳敷きの部屋とフローリングの部屋があり、全室、窓は南か東向きになっている。広い窓には障子が入っていて、穏やかな日差しが入る工夫がされている。筆筒、鏡台等馴染みの品を持ち込んで落ち着いた居場所となっている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドからの転落があった方には畳に布団を敷いて寝てもらったり、出来るだけ、ご本人の力で立位がとれるよう工夫している。		